高学年活動例　　題 材　VR きけん予知①　信号交差点の横断　指導マニュアル

1　本時の目標

360度 VR 動画を用い、信号交差点の横断時に潜む危険を予測できるようにする。特に、ルールを守っているだけでは防げない危険に対する自衛行動ができるようにする。

2　活動のめあて　見えないきけんを予測しよう

【学習で押さえたいことがら】
- 自分がルールを守っているだけでは防げない交通事故があることに気づく。
- 青信号の横断歩道でも「かもしれない」と危険を予測して横断する重要性を理解する。

3　準備

学習用タブレット端末、資料①「信号交差点の横断　ワークシート」

※先に、マニュアル動画「交通安全コンテンツを活用してみよう！」をご覧いただくと、流れが分かりやすいです。

マニュアル動画

💡動画の容量が大きいため、通信環境により各自で端末を利用することができない場合、グループ等の複数人で1台の端末を共有します。

4　本時のポイント

導入（5分）	（例）交通事故から身を守るために、どのような行動を心がけていますか？
活動 1 （5分） 動画を見たら、まずはひとりで考えましょう	・ 動画は全画面再生で見ます。 ・ 動画は、スワイプすることで 360 度見ることができます。 ・ 大人から正しい・適切な行動については教えません。自分の考えと自己評価点を記入します。
活動 2 （28分） みんなで考えましょう	・ ②では、3つのポイントを見て、危険な車や人を見付けたら、グループ内で見付けたことを伝え合います。また、見付けた危険な車や人によって起こりうる事故や危険な場面について話し合います。 ・ 動画から見付けた危険な運転や歩行をする人の気持ちを話し合います。 ・ ③では、これまでの活動を振り返り、安全な行動や気をつけるポイントをグループで話し合います。 ・ ④では、「子どもだけでは防げない危険」という視点で、これまでの活動を振り返らせます。そうすることで、「大人にやってほしいこと」が考えやすくなります。 ※メモ欄は必要に応じて活用します。必ずしも埋めなければならない欄ではありません。 💡ワークシート裏面下に、鳥瞰動画の QR コードがあります。必要に応じて活用してください
活動 3 （7分） もういちど、ひとりで考えましょう	・ 再度、自己評価点を記入します。1回目の点数より下がった場合、交通安全に対する意識は、より高まったともいえます。②に記入した理由に着目してください。 ・ ③については、話し合った 2 の③の内容から選ぶ方式でもよいです。 💡後日、ワークシートの記録を見て、その後も危険を予測しているかどうか振り返らせるとより効果的です。

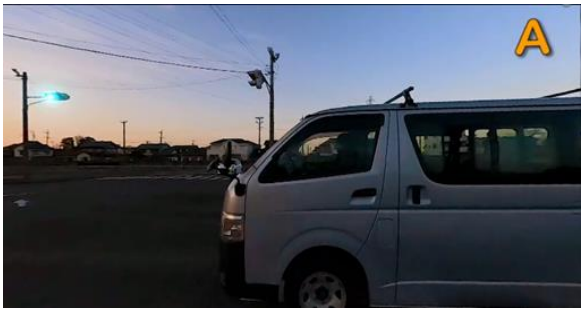
※マニュアル動画を一時停止しながら、動画と一緒に活用し、指導いただくことも可能です。

VR きけん予知①　信号交差点の横断　指導のポイント

※ この教材は「子どもたち自身で話し合って危険を考える」ことを主眼としています。この「指導のポイント」の内容を「正解」として伝えることは控え、話し合いがうまく進まない場合や、動画から危険をなかなか発見できない場合に「ヒント」として利用することにとどめてください。また、ここに書かれていない危険を子どもたちが指摘した場合でも、それらは子どもの視点からの発見ですから、けっして「誤り」や「不正解」とはしないでください。

活動終了後、以下を参考に、動画上の危険な場面について解説を加えると有効です。

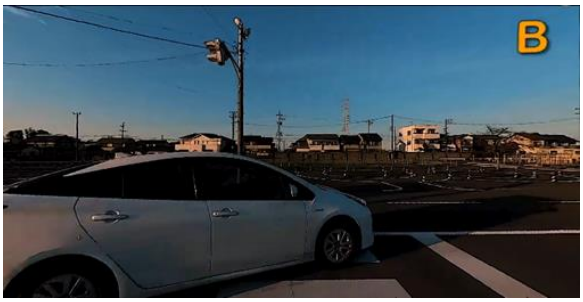
ポイント1：信号無視で横切る車両



信号の変わり目では赤信号でも直進する車両があります。このような運転者は先を急いでいるため、スピードも速く、歩行者が横断を始めていても無理やり通過する可能性があります。

また、ながら運転などで注意力が低下している車両は、信号の変わり目でなくとも、赤信号に気づかずノンストップで通過する場合もあります。名古屋市内でも実際にこのような状況で小学生の死亡事故が発生しています。

ポイント2：急いで右折する車両



特に信号の変わり目では、対向車よりも先に右折しようとする車両があります。このような運転者は先を急いでいるため、スピードも速く、かつ小回り（ショートカット）で右折し、歩行者の近くを高速で通過することになります。

また、このような運転者の注意は主に対向車に向きがちなため、横断しようとする歩行者（運転者から見て右後ろにいる）に気が付かない可能性があります。

ポイント3：下を向いたりスマホ等を見ながら横断する歩行者

青信号の横断歩道では歩行者側に「優先意識」が生まれます。「車が止まってくれるはず、止まって当たり前」と思い込むことで注意力が下がり、周囲を見ないで下を向いて、スマホ等を見ながら、または友人と話しながらなど、車両の動向に注意が向かなくなりがちです。

このような場合に、上記の「ポイント1」や「ポイント2」のような車両があった場合には、事故に発展する可能性が高まります。特に動画のような薄暮時などに、暗い色の服を着ている歩行者は、見落とされる可能性があります。